

2009 全米オープンジュニア大会報告



総括

監督 全国高体連テニス部副部長 大森 徹

3月の全国選抜高校テニス大会の個人戦で優勝した、男子遠藤豪選手（四日市工）と女子江口実沙選手（富士見丘）が日本の高校生を代表して全米オープンジュニア大会に参加した。例年通り強化合宿を計画したが、今年は日本テニス協会強化本部長の福井烈氏をはじめ右近憲三氏のはからいで、ナショナルトレーニングセンターで実施することができ、鈴木貴男プロや関東学生の上位選手が相手をしてくれるという恵まれた環境での練習に、二人とも手ごたえを感じてアメリカに立つことができた。

ニューヨークでは昨年同様マンハッタンラケットテニスクラブで練習を重ね、またウィルソンのスタッフの援助もあって高いランキングを持つ外国のジュニア選手と練習することもでき、かなり良い状態で大会の臨むことができた。

二人とも初めての参加ということでやや緊張気味であったようだ。直前までの状態とは違い自分の実力を十分に発揮できないままに試合を終了してしまったように思う。敗因を考えた時、もちろん世界の強豪と戦うためにはメンタル面で強くなることはもちろんだが、技術面では特にサービスやリターンをもっと強化していくことが必要だと痛感した。ストローク戦だけならそれほど引けはとらないように思う。相手のサービスから（同様に相手

のレシーブから)の早い段階でポイントを取られてしまうことを何とか防がないといけ
ない。サービスのスピードやコース、ファーストサービスの確率などに差があるように思
う。これを克服しないと勝つのは難しいように思う。

全米オープンでは、予選の選手と本戦出場の選手とでは待遇が違う。「勝負は勝たなけ
ればいけない」ということだろうか。二人は今回の遠征でいろいろ学んだと思う。試合に負
けて考えたであろうし、試合を観て感じたであろうし……。来年こそは世界の強豪に引
けを足らない選手が育ってくることを期待したい。

大会成績

男子予選1回戦 遠藤 豪 1-6, 5-7 Oliver GOLDING (GBR)

女子予選1回戦 江口実沙 6-3, 6-3 Andrea GAMIZ (VEN)

女子予選2回戦 江口実沙 4-6, 4-6 Luksika KUMKHUM (THA)



(ナショナルトレーニングセンターにて)

《 選手の感想 》

四日市工業高校 遠藤 豪

まず始めに、US オープンジュニアという素晴らしい大会の予選ワイルドカードをいただきありがとうございます。全国高体連テニス部の先生方や読売新聞西部本社・ウィルソンのスタッフの方々のお力添えがあつての事だと心から感謝しています。

試合は予選の1回戦目で残念ながら負けてしまいました。相手は第14シードのイギリスの選手で1-6, 5-7でした。ファーストセットはその場の雰囲気にもまれてしまい、自分でも何をしているかわからないまま終わってしまいました。先にキープやブレイクのポイントがあつたのに逆転されるパターンばかりでした。セカンドセットは雰囲気にも相手のボールにも少しずつなれて、互角に打ち合うことができましたが、5度のマッチポイントをしのいだものの力尽きてしまいました。相手と明らかに違ったところはサービスとリターンの力の差だと強く感じました。今後はもっとサービスのスピードを上げて幅広いコースに打てるようにすることと、リターンをしっかりと深い所に打てるようにしていきたいです。

US オープンの会場を見たときはすごく感動しました。四大大会の会場は日本の会場よりはるかに大きくて異様な雰囲気でした。予選と本戦とではコートが違い、予選は本戦の会場の隣でした。本戦の会場に入るにはチケットかIDが必要で、朝からすごい行列でした。会場にはたくさんブースがあり、人気のあるフェデラーやナダルなどが試合をした後はすごい人が列を作っていました。センターコートではチェンジコートをするたびに音楽がすごい音で流れ、観客席をランダムにスクリーンに写したりして、選手だけでなく観客も盛り上がったりして、センターコートだけはエンターテイメント的な感じで、選手には影響ないのかな・・・と思いました。

男女ともに上位シード選手の試合はすべて見ました。シード選手はリスクのあるショットはあまり使ってなくて、追い込まれた時はまもって、チャンスが来たときにしっかりと得意なショットで攻めてポイントを取っていたから、相手がリードしても全然気にしてない感じでした。すごく簡単にテニスをしているように見えました。強い選手は観客をすぐ味方につけて、応援してもらえらうほど選手も乗ってきて自分を盛り上げていました。僕も真似できるところは真似していきたいです。

最後に、2010年の全国選抜高校テニス大会の個人戦に臨む1年生・2年生の皆さんには是非この経験をしてほしいと思います。優勝を目指して頑張ってください。

富士見丘高校 江口実沙

まず始めに、全国高体連テニス部の先生の皆様、読売新聞西部本社の皆様、ウィルソンのスタッフの皆様、US オープンという大きな大会のワイルドカードを、そして私たち選手のサポートなどありがとうございました。初めての四大大会でとても貴重な体験をすることができました。

US オープンの会場は敷地がとても広く、そして観客もものすごい数で、大きな大会なんだという独特の雰囲気が漂っていました。選手はランク分けしてあって、予選の選手より本戦の選手が出入りできる場所が多かったりしました。プロのシード選手などはそれ用の練習コートがありました。また、予選のコートはUS オープンの会場のすぐ横にありました。

私自身の試合は予選の2回戦で負けました。1回戦はベネズエラの第5シードの選手とやりました。最初はどうも自分のプレーをすることができず、1-3になりました。でもそこからだんだん自分のプレーができるようになり、6-3でファーストセットを取ることができました。その後も多少ミスをしながらも自分のペースで進めることができ、セカンドセットも6-3で勝つことができました。2回戦はタイの両手打ちの選手と試合をしました。相手の選手は結構速いペースで打ってきて、また両手打ちなのでうまくコースが読めなくて、2-5になりました。でもだんだんペースがあってきて4-5まで持っていたのですが、次の自分のサービスゲームを取ることができず、4-6でファーストセットを落としてしまいました。セカンドセットも3-5からブレイクして4-5になったのに、また自分のサービスゲームを落として、4-6、4-6で負けました。予選で負けてしまったけれど、とても多くのことを学べた試合でした。他の選手の試合を見ながら、自分を客観的に見つめることができ、「ここが違うんだなあ」と気づくことができました。

試合で負けてしまったあと、プロの試合をたくさん観戦しました。フェデラー、ヒューイット、サフィナ、ウオズニアッキ、ハンチュコワなどを見ました。どの選手も速い球を打った時も打たれた時もエラーがとても少なく、サーブを武器にしてサーブから展開を作ってポイントを取るのものがもの凄くうまかったです。また、どんなに厳しいボールを打たれてもきちんと打ち返していくところは、足の動きや予測などが本当にすごいなあと思い、またそれは自分が強くなるためにとても必要なものだと思います。ウオズニアッキ vs クズネツォワの試合では、ウオズニアッキが2-6, 7-6, 7-6で勝ったんですが、クズネツォワのメンタルの強さに驚きました。ファイナルでタイブレイクになるまでにウオズニアッキに3度のマッチポイントがあったのに、その3回すべてエースでしのいでタイブレイクまで持っていきました。どんなに勝ちたい試合でも最後の最後まで強気で攻めていくメンタルの強さが他の選手よりも凄くて、これも強くなるために必要だと思います。今回の遠征で、自分が行った試合からもまた観戦した試合からも多くの課題を見つけ、これから強くなっていくために必要なことを学ぶことができ

ました。この経験を生かし、次の全国選抜高校テニス大会の個人戦で優勝し、今度は US オープンの本戦でプレーし、将来は一般の US オープンの本戦でプレーできるように頑張っていきたいと思います。

